

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690700345		
法人名	スターツケアサービス株式会社		
事業所名	グループホームきらら嵯峨嵐山 霜月		
所在地	京都市右京区嵯峨新宮町51-3		
自己評価作成日	令和4年11月30日	評価結果市町村受理日	令和5年8月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2690700345-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノロ上ル梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」1階		
訪問調査日	令和5年6月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設での生活は、なるべく今まで送ってこられた生活に近くなるように家事など、お手伝いいただける場所はお手伝いいただいております。食事は、基本施設での手作りで提供をしています。食事のメニューをご利用者様と一緒に考え、出前などではご利用者も選べるよう工夫をしています。また、ご利用者様の今までのライフスタイルや役割、残存能力維持のために、掃除や調理など家事全般できることを一緒にしていただいています。当施設の概念として、ご利用者様主体の生活がいつまでもご利用者様と共に継続して行えることが出来るよう、日々業務の見直しを行い、ご利用者様のニーズに応えられるよう努力をしています。本年度もコロナウイルス感染予防の為、地域の方との交流や外出支援が出来ませんでしたが、施設内の畑の収穫や、施設周りの散歩などを取り入れ、外の空気を吸ってもらいながら気分転換を図っていただくようにしております。12月には少しずつ地域のイベントを復活していきたいという思いより、去年大成功であったキャンドルナイトを実施し、キラキラの毎日が送れるように願いを込めて開催したいと思っております。職員のスキルアップに関しても、資格取得や、職員同士の研修を全員が毎月できるように実施しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

GHきらら嵯峨嵐山の南隣には田畑が広がり事業所の花壇(記念樹・季節の草花や野菜)や散策路と融合し、奥行きのある自然豊かな環境になり、利用者の生活を潤しています。GHきらら嵯峨嵐山は、利用者主体の生活をする事に重きを置き、イベントや献立を決める時も利用者「ごどんなんしたいですか?」と先ず訪ね、今の利用者にあった取り組みができるようにユニット会議で話し合い、今の利用者にあった実践に繋がられています。そのためには日々の業務の見直しも厭われません。コロナ禍でも、感染対策を十分したうえで、対面会やひとけのない時に、近くを少し散歩してみたり、花壇のある散策路や駐車場で、外気に触れたり、気分転換をさせています。また、12月にはキャンドルナイトを2年続きでおこない、利用者、家族、職員のモチベーションを高め、地域の方の期待に答えています。感染症5類への移行に伴い、居室での面会や近くのコンビニ・薬局への買い物、ボランティア受け入れの再開、認知症サポーター講座の開催、地域交流室の貸し出し、納涼祭の復活、利用者の馴染みの車折神社への初詣、そして、制限のない状態でのキャンドルナイトなどの楽しいイベントを利用者と職員みんなで作り上げていく様子を、管理者は生き生きと話されていました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念に取り込まれており、共有している。 朝礼時唱和している。	企業理念、事業所(運営)理念を玄関に掲示するほかWebサイトに掲載、名刺裏面に印刷して共有し、朝礼では理念唱和をおこなっている。理念の実践状況は朝食の時間を、入居者の起床しやすい時間にずらすなど、入居者主体での業務の見直しをしている。また本社での事業所計画会議で管理者が発表して決定する事業所スローガン「勇気を奮い起こし、果敢に何事にも挑戦し、希望をもって関わる全ての人に喜びと感動を与えることのできる事業所へ」は、全体会議で職員に伝達の上共有している。スローガンは毎年4月に更新され、実施状況は法人の月例会議で報告している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域から定期的に明治の飲料やお米屋さんや米などを持ってきてくれるなどの交流している。米の種類を定期的に変えて頂いたりしている。クラスターが出たため、納涼祭は今年中止となったが、クリスマス前にキャンドルナイトを通じて地域交流を再開予定。	令和4年度はコロナ禍で制限されることが多かったが、地域委員の方に、地域の情報をもらい、感染症5類への移行後は地域行事への参加や、地域の人と一緒に事業所の行事に取り組む準備をされている。令和3年、4年と12月に正面の駐車場や花壇でのキャンドルナイトの取り組みが、好評だったので、令和5年にも取り組む予定をされている。他にも、認知症サポーター養成講座の開催や、納涼祭、ボランティアの受け入れ再開を予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	オープン当初は地域サロンを活用し、来てくださる方に認知症の知識の説明等を行っていた。認知症サポーター研修などを定期的に行えるように資格を管理者が取りに行けるように動いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの影響もあり会議が開催できず、書面で運営方針を発信している。今期は2回地域の方を含めて開催したが、残りは書面对応となった。ご家族にもアンケートを実施し、改善策などを入れていく。	コロナ禍の為、運営推進会議は書面開催が多かったが、令和4年度は2回対面開催でおこなえた。開催にあたり、行政、家族、地域委員、民生委員、協力医、薬剤師、マッサージ師、などに案内を配布して、対面開催時は都合のつく方に来てもらうと流動的である。議題は利用者の状況、職員の人事や研修、ヒヤリハット、事故報告、行事について、身体拘束適正化委員会の報告などである。書面開催時は家族に事前にアンケート用紙を送り、出された意見は議事録にて報告している。議事録は出席者や家族全員に配布している。家族アンケートで、出された意見は、コロナウイルス感染症の不安や心配からくる意見が多く、日常的におこなっている感染対策を説明して、安心してもらえるように努められた。	・運営推進会議開催の案内を多岐にわたる方に配布しています。そして、対面開催時のメンバーはその時に都合のつく方が来られると、流動的であるが、同じ方に委嘱することで、継続した取り組みを識ってもらう、多方向からの評価をしてもらうことが、望めるのではないのでしょうか？ ・事故報告をより詳細にして、原因、結果、今後の対応、を記していかれることをお勧めします。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターには、2か月に1回、きらら新聞を渡しに行っている。それを踏まえて地域交流のある時は参加していただけないか伺い、また地域で困っておられる方への資料配布をお願いしたりと協力関係を築いている。	行政の担当課には運営推進会議の議事録を持参し、窓口で渡すが、担当者との直接のかかわりは持っていない現状である。地域包括支援センター職員は運営推進会議に参加し実情を知ってもらい、地域の高齢者の情報ももらっている。保健福祉センター職員からはコロナウイルス感染症流行時の対応などの指示を得ている。地域ケア会議の開催時には参加をしているが、事業所連絡会のズーム開催時は、事業所はズームが使えないので、参加ができていずに、資料だけもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の実績はない。2か月に1回、管理者、リーダー、計画作成にて構成される「身体拘束廃止委員会」を実施し、運営推進会議で報告を行っている。職員には研修を行っている。	身体拘束廃止委員会はホーム長、リーダー、ケアマネジャーが主なメンバーで、2か月ごとに開催し、家族、地域住民、協力医にも開催の案内を出している。テーマを決めて委員会で話し合ったことを運営推進会議で報告をしている。身体拘束廃止の研修は高齢者虐待と一緒に年2回おこない、欠席者には資料を配布のうえ、全職員がレポートを提出している。日々の生活において、威圧的に話をせず、利用者の言葉を傾聴し、職員のチームプレイで、状態によっては冷却期間を置きながら、対応するようにしている。また、ユニット会議開催の前に、2～3か月毎や話題が出た時には、虐待チェックリストを配布して、ユニット会議で収集して話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を行いつつ、お互いに関わり方を意識しながら虐待防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、同意の捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、ご家族からの意見など反映できる仕組みづくりを行っている。	家族からの意見は電話や運営推進会議書面開催時のアンケート、手紙、荷物を持ってこられた時に聞いている。アンケートで出された家族の意見は運営推進会議の議事録に載せて報告している。家族からは、利用者の日常生活の写真や食事の写真を送って欲しいとの希望が多く、3日分位の写真を各ユニット毎に纏めて家族に送付して喜ばれた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議及びユニット会議にて話し合う場を作っている。 意見や提案を反映する機会を設けている。	今年度の事業所スローガンを「勇気を奮い起こし、果敢に何事にも挑戦し、希望をもって関わる全ての人に喜びと感動を与えることのできる事業所へ」としている。このように目標を掲げたことで、全体会議やユニット会議の中で、職員からは「こういうイベントをしたい」や「食事をバイキング形式で」などの利用者にとって楽しい企画がよく出てくるようになってきている。キャンドルナイトのイベントや食事では和・洋・中から利用者が選ぶバイキング形式などに取り組んでいる。どうしたら取り組めるのかもみんなで話し合い実践に結び付けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年考課制度を活用しており、ボーナスや給与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTシートの活用及び社内研修の実施にて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルスの影響により、交流機会があまりないが、初任者研修や実務者研修、計画作成者担当研修など外部の研修などに職員が参加することで交流機会を設けている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談でのご様子やご家族様や担当ケアマネージャーからの情報や利用前情報シートを基にアセスメントを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や入居前情報を通じ、ケアプランに反映させて同意をいただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時にアセスメントを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共生の意識を持って、関係性を築ける様、心掛けています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの影響もあり、感染対策を施した上で、面会機会を設けている。予約制、時間制、人数制限はあるが、ご利用者と直接会えるようにしている。	入居時に家族にセンター方式の基本情報シート、生活史、暮らし方などを書いてもらい、入居時の面接でも暮らし方や趣味などを聞いてアセスメントをしている。コロナ禍の中でも、踊りの師匠をしていた入居者の生徒さんが会いに来られたり、手紙を送ってこられている。近所付き合いのあった人も面会に来られている。馴染みの場所への外出はできていないが、感染症5類へ移行したので馴染みの車折神社への初詣を考慮しておられる。今までされていた編み物やコケ玉栽培や新聞紙でゴミ箱折りが入居者の希望により続けられている。日々の生活の中で、利用者や家族に聞いたことは支援経過や日誌に記入し、ユニット会議や朝礼の時に共有している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係性を把握したうえで、孤立しない様な関わりを実践しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了されたご家族と、必要に応じて連絡をとり、終了後の経過を伺い出来る限りの支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位を念頭に置き、尊重するように、努めています。	入居時のアセスメントシートや入居後1週間は「24時間生活シート」「私が求めるかかわり方シート」を記入し、日課表に沿って、利用者の生活リズムや暮らし方の希望の把握に努めている。日々の生活でも利用者の言葉や様子から把握に努め、支援経過や日誌、ユニット会議の議事録に記入している。利用者の自宅に帰りたいとの希望に、家族と打ち合わせをしたうえで、職員が付き添い、家での車いすの使い方などを家族に見てもらうことで、3回目からは家族だけで連れて帰られて半日過ごされたという、うれしい経験をされている。意思表示が難しい方は、2つの物を見せて選んでもらえるように工夫をしている。	利用者や、家族から聞いたことや把握したことを、支援経過や日誌、ユニット会議の記録に載せられているが、多岐にわたった記録を一つの記録にまとめることで、より確かなものになり共有しやすくなるでしょう。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートを活用し、生活歴や昔のなじみなどの把握を行い、日々のコミュニケーションから聞き取り、ケアに生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを通じて本人様の生活ペースを考えケアに生かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	体調や状況に合わせたプランニングに努めています。	入居までに家族に書いてもらったセンター方式の基本情報シートや入居時のアセスメントで、初回の計画を作成している。1か月後に、家族の意向や医療情報を事前に聞いておき、ユニットミーティングでサービス担当者会議をおこない、本プランを作成している。毎月、ユニットミーティングでモニタリングをおこなっている。基本は6か月でモニタリングの総括をおこない、再アセスメントを作成している。その上でサービス担当者会議(ケアマネジャー、管理者、介護職)が入り、事前に家族の意向や主治医の医療情報、訪問看護師、薬剤師・訪問マッサージ等の情報も聞いたうえで検討課題を話し合い、介護計画を見直している。ただし、著変のある時は随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報共有を行い、実践に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関などとも連携し、多様なサービスを活用できる様に調整している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域イベントは、新型コロナウイルスの影響もあり、難しいが、買い物同行は、人が少ないところへは再開している。またユニット内で、調理や洗濯など、本人がその人らしく生活できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医もしくは本人や家族の希望する病院にて受診できる様支援している。	契約時に家族・入居者にかかりつけ医について説明し、内科の協力医療機関で、月2回の訪問診療を受け、診察時には薬剤師に立ち会ってもらっている。また、病歴により、他科医療機関の受診に家族といかれる時は、医療情報を直接渡している。訪問歯科は希望者に対し、歯科医師が月1回の訪問診療と、歯科衛生士による週1回の口腔ケアをおこない、職員は指導をしてもらっている。その他、希望者は訪問マッサージ施術を受けている。訪問看護師は週1回の訪問で、利用者の健康状態の把握をしている。緊急時には協力医療機関は24時間対応をしてもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の看護師と常に連絡を取り合い、適切に受診対応ができるよう支援している。 特別指示書での訪問も来てくださる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には病院と連携しカンファレンスを行うなどスムーズな連携を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	方針を作成し共有している。家族、医療機関と必要に応じて連絡を取り、本人の状態、家族の要望などを踏まえて施設での看取りか医療機関につなげている。	重度化の際の指針があり、家族には入居時に説明をして意向を確認している。また、重度化した時は医師を交え話し合い、同意を得ている。職員は年間計画での看取りケアの研修を受けると共に、事前にユニットでも研修をおこなっている。開設から10例以上の看取りをおこなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを備えており、救急車の呼び方など定期的に訓練を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、水害想定避難訓練年3回実施。地域の方と合同の避難訓練も検討していたが、新型コロナウイルス感染予防の為、収束後にできればと考えている。	避難訓練は火事、地震、水害、の訓練を入居者も一緒におこない、3回目には夜間想定での訓練もおこなっている。今まで消防署は立ち会えていなかったが感染症5類への移行に伴い、令和5年度は、立ち会ってもらう予定である。備蓄は水、缶詰複数種類、フリーズドライの雑炊3日分を有し、簡易トイレも備えている。食品の賞味期限は会社が管理している。AEDも備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応しています。	運営方針にも利用者の意志及び人格・人権の尊重に努めると明記し、職員は年1回の接遇研修を受けて接遇やプライバシーについて学んでいる。日々の支援では居室への入室時はノックと声掛けをおこない、トイレの声掛けも排泄チェックシートを見てそれとなく声をかけている。また排便は「黒」、排尿は「白」と隠語で表現し、トイレの臭いにも配慮している。入浴では同性介助の希望を聞き、入浴時は少し開けて見守っている方もいる。食事のエプロンが必要な方は、家族に家庭用のエプロンを持ってきてもらい使用している。職員の言動で、気になることがあれば、管理者とリーダーが、その都度注意をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意思を尊重し、働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望に沿った支援が行えるよう、努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさが表現出来るように、努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一部のご利用者に限られますが、準備や後片付けを一緒に行っています。	メニューは入居者と一緒にチラシを見て、意見を聞いて朝に決定している。食材の買い出しは、毎日、朝もしくは夕に職員がおこなう(梅雨の際はまとめ買いする)。食事作りは利用者が、米を研いだり、味見や配膳、下膳、食器拭き、お盆拭きなどそれぞれにできることを一緒におこなっている。メニューの幅は広く、COOKPADメニュー、鰻、豚キムチ、唐揚げ、タコライス、揚げバナナ、そしてインドネシア出身の職員がいることで海外料理が出たりもする。行事食では出前のお寿司、ほか弁、ガスト、コッペパン、中村屋のコロッケも楽しみの一つである。おやつはホットケーキミックスで作ったバームクーヘン、コーヒーゼリー、シャトレーズで買ったケーキ、移動パン屋の訪問販売もある。和菓子バイキングといった職員の案も取り入れて、食を楽しむ機会を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量を観察し記録に記載している。本人様に応じた分量を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しつつ、声掛けや誘導を行い記録にて共有している。	排泄パターンをチェックして、その時間の少し前にトイレ誘導するようにして、できるだけトイレでの排泄を支援している。利用者の様子を見ながら「ご飯前にちょっと行っときましょうか」などと声をかけている。尿意を感じづらい入居者でも、記録を見て、早い目に誘導して成功する時もある。自立された例は、入院して紙おむつだった方が退院してこられ、リハビリパンツに変えて、定時誘導をすることで、トイレでの排泄が成功している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘解消に向けて毎日R-1の提供など自然排便を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ある程度生活リズムを作るために時間を合わせて入浴介助を行うが、本人要望により前後できるよう調整している。	週2回、午前か午後の好きな時間に入浴をしている。同性介助や湯温、湯量の希望に沿い。湯や、足ふきマットは一人ずつ交換し清潔に配慮されている。季節湯は入浴剤でゆず湯、菖蒲湯などを楽しみ、好きなシャンプー類を持ってきている人もいる。浴槽・手すりが可動式で、手すりをもって足が上げやすい方から入ることや利用者の状態で、介助しやすい方向からの支援が可能であり、安全に入浴ができています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムを大切にした支援を心掛けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤は薬局で管理し、職員の介助により確実に服薬できる様支援している。 薬局からの薬情報は、いつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設周辺の散歩などで、気分転換が図れるよう、心掛けています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響もあり、外出の機会は設けられないが、ご当地のメニューを毎月皆さんに伺い、旅行気分を味わっていただくなどの支援をしている。	コロナ禍のため外出が難しい状況が続いたが、中でも施設周辺への散策、近所の川沿いへ桜見、車中ドライブ、ベランダでの日光浴、庭先の花を見たり、事業所内庭園への散策や菜園でできた野菜(ナス、トマト、オクラ、イチゴ、ねぎ)の収穫を楽しんでいる。令和6年の正月は利用者の馴染みの車折神社への初詣も再開する予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ある程度の制限はあるが、必要に応じて個人で金銭を所持している方がいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をリビングに設置し、希望に応じて支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空間を活用し、落ち着けるような雰囲気づくりを心掛けている。	南にある庭に面した大きな窓は採光性が良く、縦長の空間への明るさ獲得、換気の良さに役立っている。落ち着ける雰囲気を作ろうとの思いで、利用者の様子を見なが配置を考え、机やソファは入居者の動線を考えて設置されている。東側一面に洗面台、エントランス、キッチンが並び、西側一面に居室が並んでいる。すだれ装飾など紙作品が部屋を彩って、「嵐山の風景を飾りたい」という会社代表者の思いがにじみ出ている。トイレは廊下側と浴室側両方から入ることができ、プライバシー確保に役立っている。空気清浄機も備えられており、清潔で過ごしやすい空間確保が出来ている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室対応でもあり、休息の時間は居室で過ごせるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様を使い慣れたものや、使い慣れた家具を入れていただくよう支援している。	居室の入り口には、職員一人一人のメッセージが色とりどりの付箋に書かれて、扇状に貼り付けられているバースデイカードなどが飾られ。居室内はエアコン、カーテン、クローゼット、照明が備え付けられ、馴染みのベッドや寝具類、タンス類や家具などを持ち込み、壁に家族や孫の写真を飾り、居心地よく過ごせる工夫をされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置やトイレの場所などわかりやすいように工夫している。		